

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○9月22日～

先週は米国が予想通り、0.25%の利下げを行ない、日本は金利を据え置きました。

そして、日銀は2010年以降に買い入れてきたETF(上場投資信託)やREIT(不動産投資信託)を売却すると発表しました。

この発表直後、日本株は急落しましたがETFの売却は簿価で年間 3300 億円程度、REITは50億円程度ということで、植田・日銀総裁は「全て売却するには100年以上かかる」とコメントしました。ETF売却のニュースはややサプライズでしたが緩やかな売却ということで、市場の混乱はそれほど大きくなっていません。

ただし、日銀は利上げ、ETF売却と確実に金融引き締めの方に舵を取ってきているため円安抑制要因になります。

米国は今後、どの程度のペースで利下げに動くのかわかりませんが、米国利下げ、日本利上げということで、為替は円安に動きにくくなる可能性があります。

株価は日経平均が4万5000円を超えるなど異常な強さを見せていますが米国株が失速してきたら注意がいります。

日本は自民党の総裁選に向けて一部で期待が高まっていますが、高市さんが総裁となっても以前のような金融緩和や円安を進められる状況ではなくなってきています。

日銀や財務省も金融緩和・円安に動くとは考えにくく、アベノミクスのような政治主導のマーケットの動きはあまり期待できない状況です。

そして、米国ですがトランプ大統領が10月1日の政府閉鎖は十分にあり得ると言っています。

チャーリー・カーク氏の銃殺事件の後、共和党と民主党の対立はさらに激化しているという話もあり、つなぎ予算案が合意できない場合、政府機関閉鎖になるかもしれません。

過去にも何度も政府閉鎖は起こっているため短期間で終われば問題ありませんが、長引けば経済へのダメージも大きくなります。

そして、ロシアが今度はルーマニアとエストニアの領空侵犯をしたということでNATO(北大西洋条約機構)との関係がさらに悪化していきそうです。

今のところユーロはドルに対しても円に対しても強い動きとなっていますが、ロシアとの地政学的リスクが高まればユーロに逆風が吹いてくるかもしれません。

不安材料も多いのですが、なぜかマーケットはリスクオンの動きが続いています。

為替相場はドル／円の停滞が続いていますが、停滞が長く続くほど、その後に大きなトレンドが発生することが多いため、今週も気を抜かずしっかりと見ていきたいです。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

<ドル／円>

先週は米国の利下げ発表の直後にドル／円は145.5円あたりまで急落しましたが、すぐに値を戻し、週末には148円あたりまで上昇しています。

146－149円程度のレンジを瞬間的に割り込みましたが、すぐにレンジ内に戻ってきたため、再び146.2－149.2円程度のレンジが意識される展開です。

上値は149.3円を超えてくれば150円、150.9円のレジスタンス(抵抗)が視野に入ってきます。

下値は147円あたりのサポートを割り込むと146.2円、ここも割り込めば先週安値の145.5円あたりのサポートまで下がるリスクが出てきます。

145.4円を割り込む動きになれば、円高リスクが高まるため注意がいります。

<気になるクロス円>

クロス円はまだ上昇トレンドが続いているペアがほとんどですが、先週末は陰線で終わっているペアもあり、週明けからの動きに注目したいです。

NZドルは先週ずっと下がり続けています。週足でも陰線で終わっているため、他の通貨に比べて安値更新の動きを警戒したいです。

カナダドルは106円で何度もサポートされて、先週も上昇してきているため、もう一段高に期待したいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では日銀・金融政策決定会合議事要旨、9月東京都都区消費者物価指数などがあります。

米国では4－6月期四半期経常収支、9月製造業・サービス部門・総合PMI(速報値)、9月リッチモンド連銀製造業指数、8月新築住宅販売件数、4－6月期GDP(確定値)、8月耐久財受注、前週分新規失業保険申請件数、8月中古住宅販売件数、8月個人消費支出(PCEデフレーター)、9月ミシガン大学消費者信頼感指数などが発表されます。

欧州では、ドイツとユーロ圏で9月製造業・サービス業PMI(速報値)、ドイツで9月IFO企業景況感指数などがあります。

ほかには、スイスで政策金利発表、オーストラリアで8月消費者物価指数、カナダで7月GDPなどがあります。